

佐農技防第721号
平成28年8月17日

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

コブノメイガの発生予想パターンについて（第2報）

コブノメイガの発生予想パターンについては、8月5日付第684号により第1報を発表したところですが、その後の気温が平年に比べ高く推移（平年比(8/4~8/16)+2.1℃）したことから、8月16日までの気温を基に新たな発生予想パターンを作成しましたので、本田で防除する際の参考としてください。



コブノメイガ被害葉

記

1. これまでの飛来及び発生状況

- (1) 本年のコブノメイガについては、7月6半旬頃に白石町のライトトラップで成虫が誘殺(7月25~27日:3頭、7月28~31日:7頭)されるとともに、同時期に伊万里市の水田においても成虫の発生を確認した。
- (2) 梅雨前線はこの頃に九州北部にかかっていないため、本種の本県への主要な飛来は6月6半旬頃であったと推察される。
- (3) 8月1日~3日に実施した普通期水稻(48圃場)の調査では、食害株率は2.8%(平年10.1%、前年1.8%)であり、発生程度は平年よりやや少なく、前年並であった。(一~±)

2. 今後の発生パターン

梅雨明け以降、気温は平年より高く推移しているため、本種の生育は遅延し、第3世代幼虫のふ化揃い期は第1報で示した時期よりも3日遅れ、防除適期は9月6日~9月10日と予想される(図1)。

3. 今後の発生程度

8月の気温は平年に比べ高いと予想されていることから、発生程度は平年よりやや多いと予想される。(±~+)

4. 防除対策

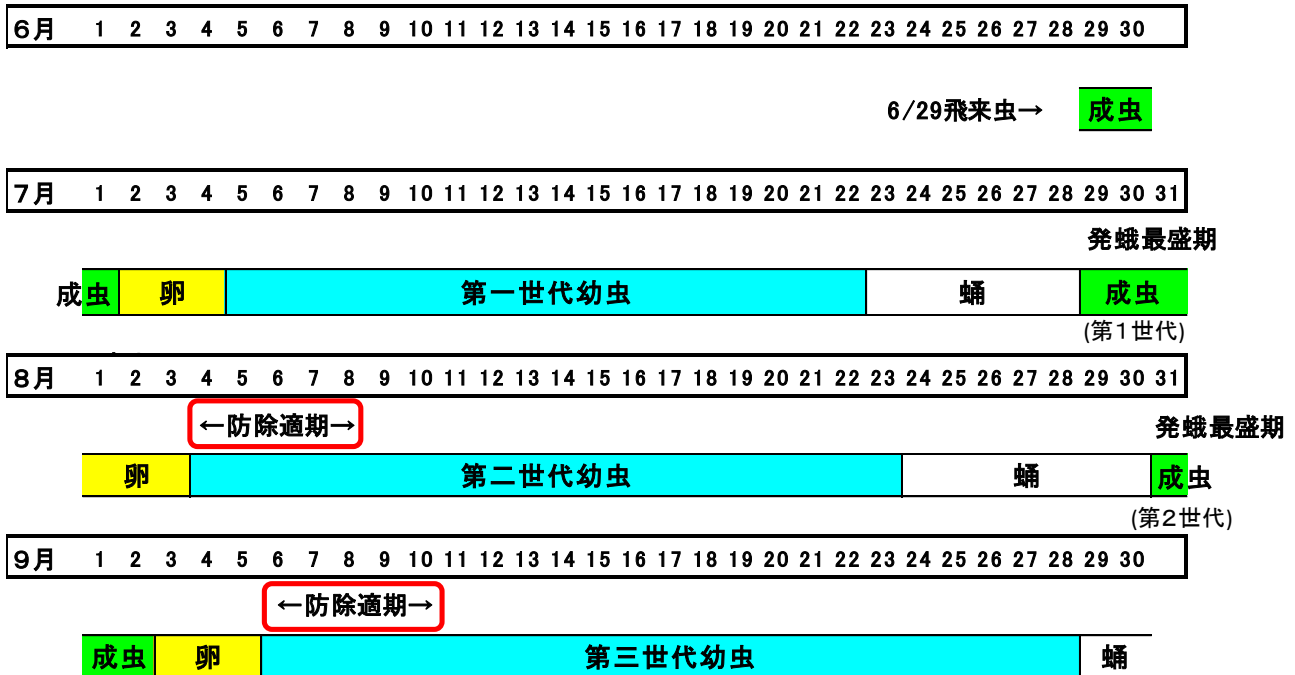
飛来量及び本田での増殖量は地域及び圃場ごとに異なるので、必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)に防除を行う。

5. 最新の飛来状況

佐賀県農業技術防除センターのホームページ(http://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00322082/index.html)における「海外飛来性害虫情報」を参照してください。

図1 コブノメイガの発生予想パターン(第2版)

(平成28年8月17日作成、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

(1)6月29日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(8月16日までは今年のデータ、8月17日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。

(2) 防除適期は、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)である。

(3) 飛来量及び本田での増殖量は地域及び圃場ごとに異なるので、必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認して防除を実施する。

(4)発生予想パターン第1版(8月5日作成)では、6月29日飛来の第3世代幼虫の発生始めは9月3日と予想した。8月16日までの気温で再計算した結果、7月19日以降の最高気温が平年より高く推移したため、生育の遅延により、今回の第2版での同幼虫の発生始めは、9月6日となっている。